令和７年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立　ひびきが丘　小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、６年生を対象として、令和７年４月１７日（木）に、「教科（国語、算数、理科）に関する調査」、文部科学省が指定した日（４月１８日から４月３０日の間）に「児童質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

１．調査の目的

⑴　義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。

⑵　学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

⑶　そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

２．調査内容

⑴　教科に関する調査（国語、算数、理科）

教科に関する調査（国語、算数、理科）
①　身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等 ②　知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

⑵　児童質問調査

児童質問調査
○　学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

※ 本校の６年生については、単学級ですので個人が特定されないように公表の方法については、配慮しています。

３．教科に関する調査結果の概要

(1)　全国・本市の学力調査（国語、算数、理科）の結果

本年度の結果	国語		算数		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.9	64	8.6	54	9.1	53
全国	9.4	67	9.3	58	9.7	57

(2)　本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	・「書くこと」「話すこと・聞くこと」の問題に課題が見られる。各教科等の学習の中で自分の考えを表現する際に、相手に伝わるように書き表し方を工夫したり、自他の考えを比較したりする活動を保障していきたい。
	よくできた問題	・文章全体の構成を捉えて、用紙を把握する問題
	努力が必要な問題	・自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉える問題 ・目的や意図に応じて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する問題

算数	全体的な傾向や特徴など	・「データの活用」の問題に課題が見られる。目的に応じたグラフの選択や、条件に見合った項目を選択できるように、日常の具体的な場面と対応させた問題を解決することなどを計画的に取り組みたい。
	よくできた問題	・伴って変わる２つの数量の関係に着目し、必要な数量を見いだす問題 ・問題を解決するために必要な数量を見いだし、知りたい数量の大きさの求め方を式や言葉を用いて記述する問題
	努力が必要な問題	・目的に応じて適切なグラフを選択して出荷量の増減を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述する問題

理科	全体的な傾向や特徴など	・「粒子」領域の問題に課題が見られる。話し合う中で、比較の考え方を働かせながら、差異点や共通点を捉え、考察していく活動を保障していきたい。
	よくできた問題	・土の粒の大きさによる水のしみこみ方の違いについて、土の量と水の量を正しく設定した実験の方法を発想し、表現する問題
	努力が必要な問題	・問題に対するまとめを導き出す際、解決するための観察、実験の方法が適切であったかを検討し、表現する問題 ・根拠をもとに、理由を予想し、表現する問題

４．学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要

質問調査の結果分析
・「学校に行くのは楽しい」の問いに肯定的な回答をした児童が多い。自主的な活動や学校行事等において、自分の目標を設定したり振り返ったりしながら、各自が役割を果たすことを通して、達成感や充実感を味わうことができたと考えられる。 ・ＩＣＴ機器を活用することのよさを感じている児童は多いが、それを活用して自分の考えや意見を分かりやすく伝えることが苦手と感じている児童もいる。活用の経験を増やすこととその効果的な活用が重要と考える。 ・「学校の授業時間以外に、１日当たりどれくらいの時間、勉強していますか」の問いでは、全国平均と比べて勉強時間が少ない児童が多かった。学校から出された課題は取り組むが、自主的な学習に意欲的に取り組む児童は少ないようである。 ・「毎日同じくらいの時刻に寝ていますか、起きていますか」の問いが全国平均より低かった。学校（学級）通信や保健だより、懇談会等で、児童及び保護者への啓発を一層図っていく。

５．調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

①　教科に関する取組

・各教科等の学習において、自分の考えを書く活動や、書いた内容を共有し合う活動を保障していく。その際に、ＩＣＴ機器の効果的な活用を位置付ける。
・既習学習の定着につながる家庭学習の取組を設定していく。
・学習したことを活用する学習場面を計画的に設定していく。

②　家庭生活習慣等に関する取組

・日々の学級指導の中で、家庭生活習慣について意図的に指導していく。特別活動において、「日常の生活や学習への適応」や「健康安全行事」と関連付けながら、継続的に指導していく。
・学校（学級）通信や保健だより等を通して、学習習慣・生活習慣の成果と課題を保護者へ啓発していく。